

PASSION
FOR THE
BEST

テクニカル分析講座 Vol.1

テクニカル指標編

商号等

大和証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第108号

加入協会

日本証券業協会、社団法人日本投資顧問業協会

社団法人金融先物取引業協会

大和証券

Daiwa Securities

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗(支店担当者)経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大1.20750%(但し、最低2,625円)の委託手数料(税込)が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。

株式等の売買等にあたっては、価格の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。

信用取引を行うにあたっては、売買代金の30%以上で、かつ30万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。

非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債)を当社が相手方となりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。

外国株式の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。こうした銘柄については、外国証券内容説明書をご覧ください。

当社と大和証券SMB C(株)とは、(株)大和証券グループ本社を親会社とする同一のグループ会社であり、かつ大和証券SMB C(株)は平成20年2月以降下記の銘柄に関する募集・売出し(普通社債を除く)にあたり主幹事会社となっております。

成学社(2179) リニカル(2183) ソーバル(2186) インフォーマート(2492) 物語コーポレーション(3097) アスコット(3264) 三井鉱山(3315) トリドール(3397) ネットイヤーグループ(3622) ザッパラス(3770) トライウォール(3957) 中央三井トラスト・ホールディングス(8309) オリックス(8591) フロンティア不動産投資法人(8964)
(銘柄コード順)

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第108号
加入協会 : 日本証券業協会、 社団法人日本投資顧問業協会、 社団法人金融先物取引業協会

目次

各テクニカル指標の見方

移動平均カイリ	4
（期間設定について）	7
ボリンジャーバンド	8
サイコロジカル・ライン	10
RSI	11
MACD	12
価格帯別累積出来高	13
騰落レシオ	14

弊社提供チャート分析ツール「多機能チャート」の使い方

移動平均カイリ	15
ボリンジャーバンド	16
MACD	17
価格帯別累積出来高	18
騰落レシオ(ホームページでの見方)	19
基本操作等	20

24

補足・相場分析について

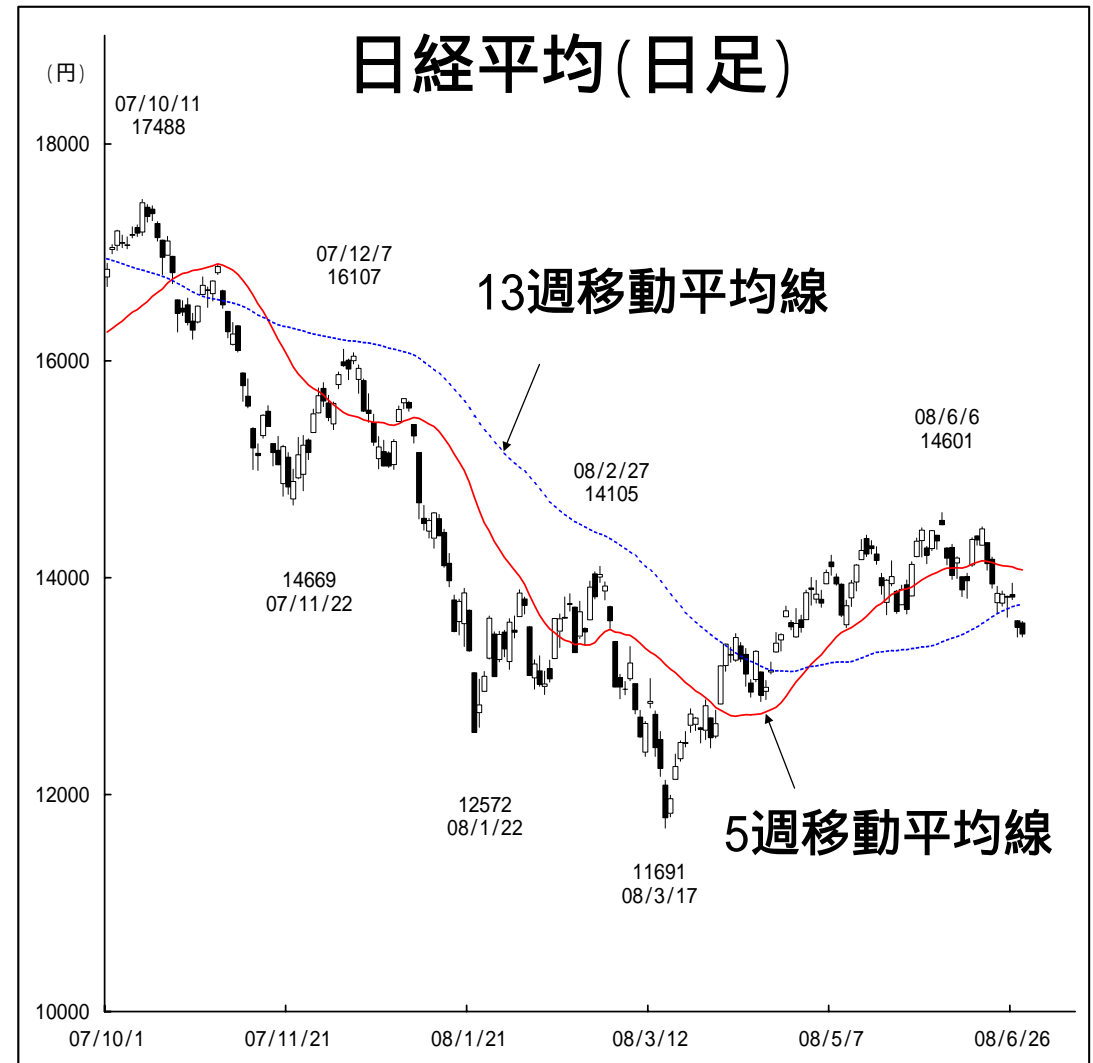
本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1. 価格指標 (移動平均カイリ率)

(1) 移動平均線とは

移動平均は、日々ジグザグに変動する足取りを滑らかに表すことで、株価の方向性や転換点を見やすくするものである。

また、下値支持線や上値抵抗線としての機能、ゴールデンクロス、デッド・クロスと呼ばれる投資タイミングを測る機能、移動平均カイリなどテクニカル指標への応用といった様々な使用方法がある。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1. 価格指標 (移動平均カイリ率)

作成方法

移動平均線を描くには、一日ずつ直近n日間の平均値を計算する。
例えば25日(5週)移動平均の場合は、

	24日前	23日前	・・・	1日前	当日	25日間の 平均値
6月12日	13,655	13,743	・・・	14,183	13,889	14,089
6月13日	13,743	13,954	・・・	13,889	13,974	14,102
6月16日	13,954	14,119	・・・	13,974	14,354	14,127
6月17日	14,119	14,252	・・・	14,354	14,348	14,142

表中の水色の網掛け部分が移動平均値となり、これを日々結んだものが移動平均線となる。

日本では5週(1ヵ月)、13週(3ヵ月)、26週(半年)、52週(1年)移動平均がよく用いられる。

1. 価格指標 (移動平均カイリ率)

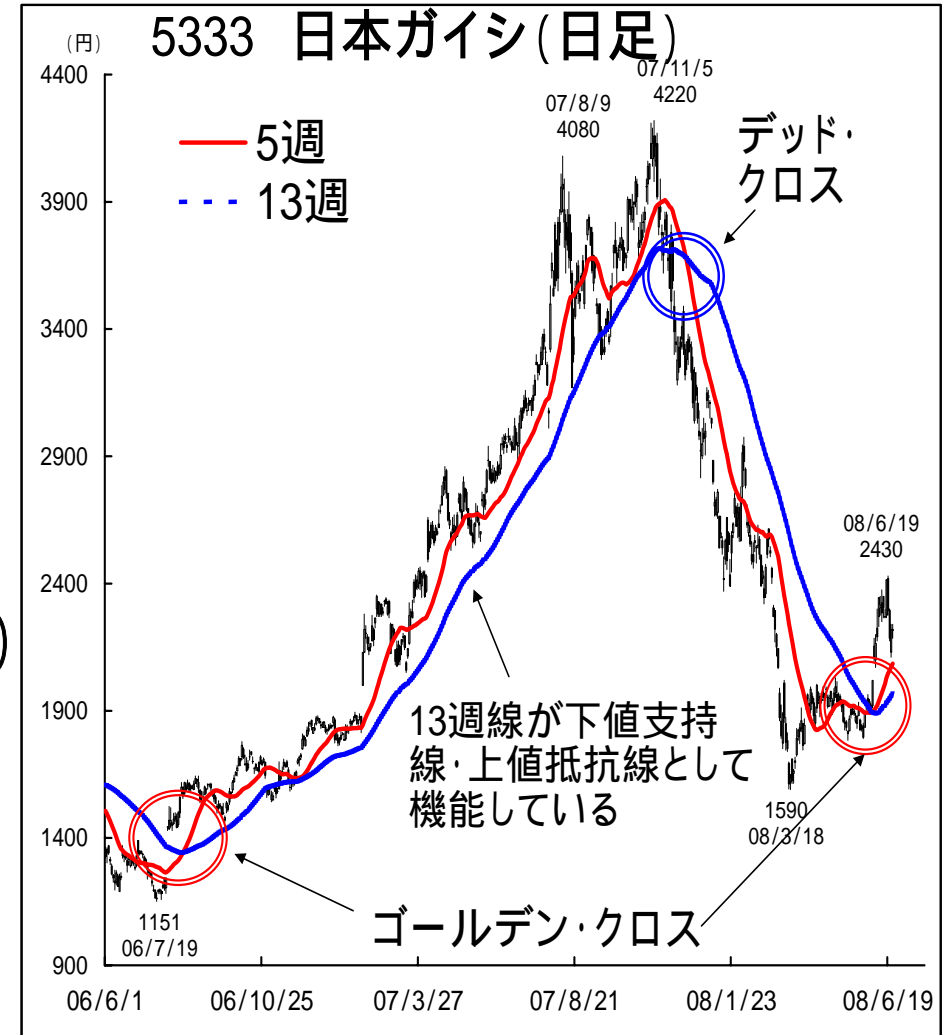
活用方法

トレンドラインとしての移動平均

移動平均は、上値抵抗線や下値支持線となるケースが多く見受けられ、トレンドラインとしての役割も果たす。

ゴールデン・クロス、デッド・クロス

短期線 (中期線) が中期線 (長期線) を上抜けることを「ゴールデン・クロス」と呼び買いシグナルに、逆に短期線 (中期線) が中期線 (長期線) を下抜けることを「デッド・クロス」と呼び売りシグナルとなる。



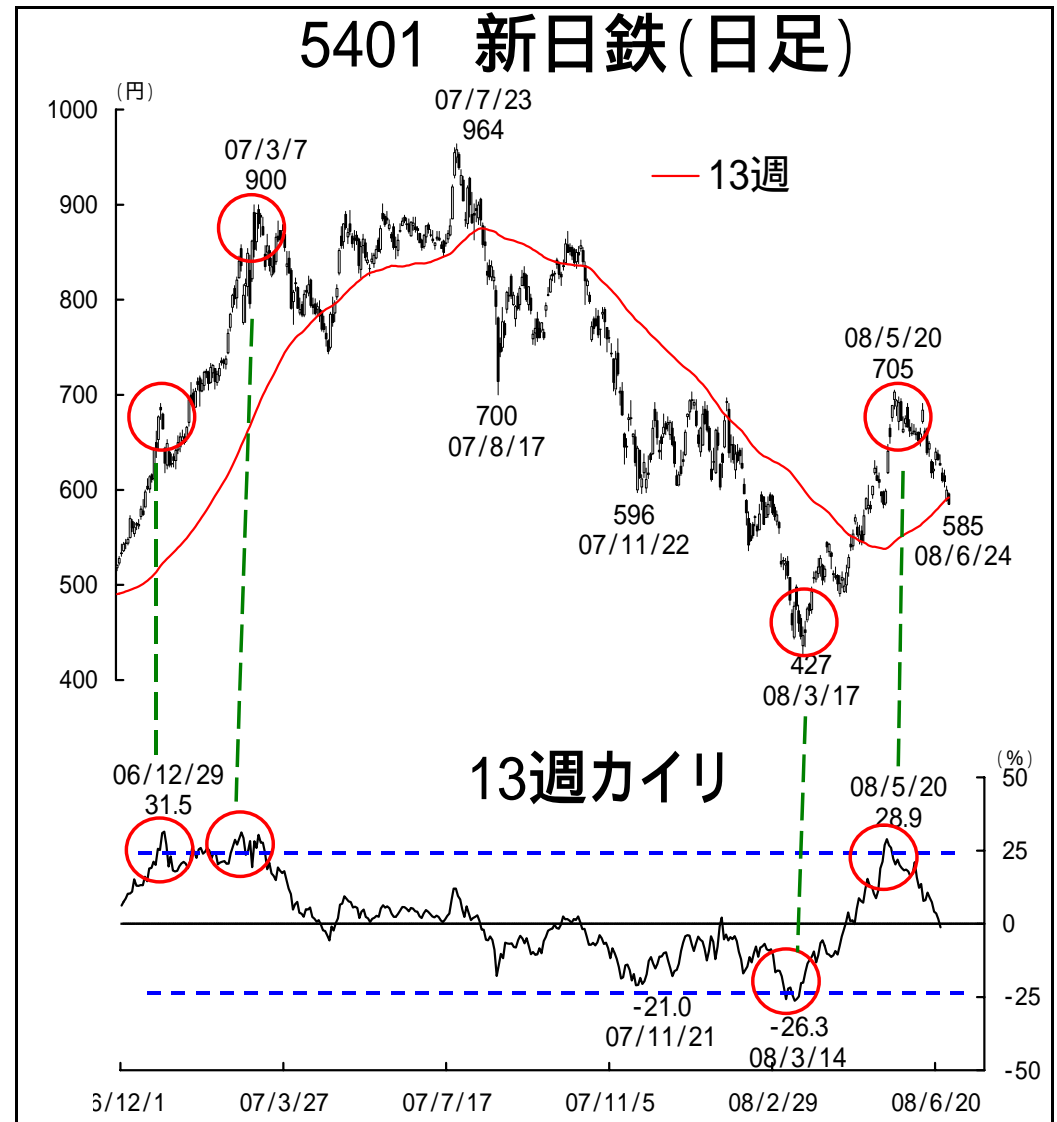
本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1.価格指標(移動平均カイリ率)

移動平均カイリ

株価と移動平均値の大幅なカイリは、利食い売り、若しくは買戻しによりやがて修正される傾向がある。

テクニカル分析においては移動平均カイリ率を用いるが、そのピーク・ボトムの水準は個別銘柄や指数によって異なる。変動性の大きい銘柄はピーク・ボトムの水準が高くなり、変動性の小さい銘柄はピーク・ボトムの水準は低くなる。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1.価格指標(移動平均カイリ率)

個別銘柄の場合、短期のピーク・ボトムは、流動性のある大型の個別銘柄では13週移動平均で±30%カイリ近辺となることが多い。
(日経平均の場合は以下を参照)

【 計算方法 】

$$\text{移動平均カイリ率} = \frac{\text{株価} - \text{移動平均値}}{\text{移動平均値}} \times 100 (\%)$$

～ 補足 ～

日経平均の経験的な
ピークボトム水準

各移動平均カイリのピーク・ボトム(日経平均)

	ピーク	ボトム
5週移動平均	+ 8%	8%
13週移動平均	+ 15%	15%
26週移動平均	+ 15%	15%
52週移動平均	+ 20%	20%

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

(補足) 期間設定について

投資期間に合わせて期間を設定する

テクニカル指標の期間設定は、想定している投資期間とほぼ同じ期間を設定することが適当である。テクニカル指標は一定期間での買われ過ぎ、売られ過ぎを判定するものが多く、期間の設定いかんでは売りにも買いにもなるためである。

【通常の期間設定】

	日足	週足	月足	年足
1週	5日	1週	-	-
5週	25日	5週	1ヵ月	-
13週	65日	13週	3ヵ月	-
26週	130日	26週	6ヵ月	-
52週	260日	52週	12ヵ月	1年
2年	520日	104週	24ヵ月	2年
3年	780日	156週	36ヵ月	3年
5年	1300日	260週	60ヵ月	5年
10年	2600日	520週	120ヵ月	10年

【「多機能チャート」での設定箇所】

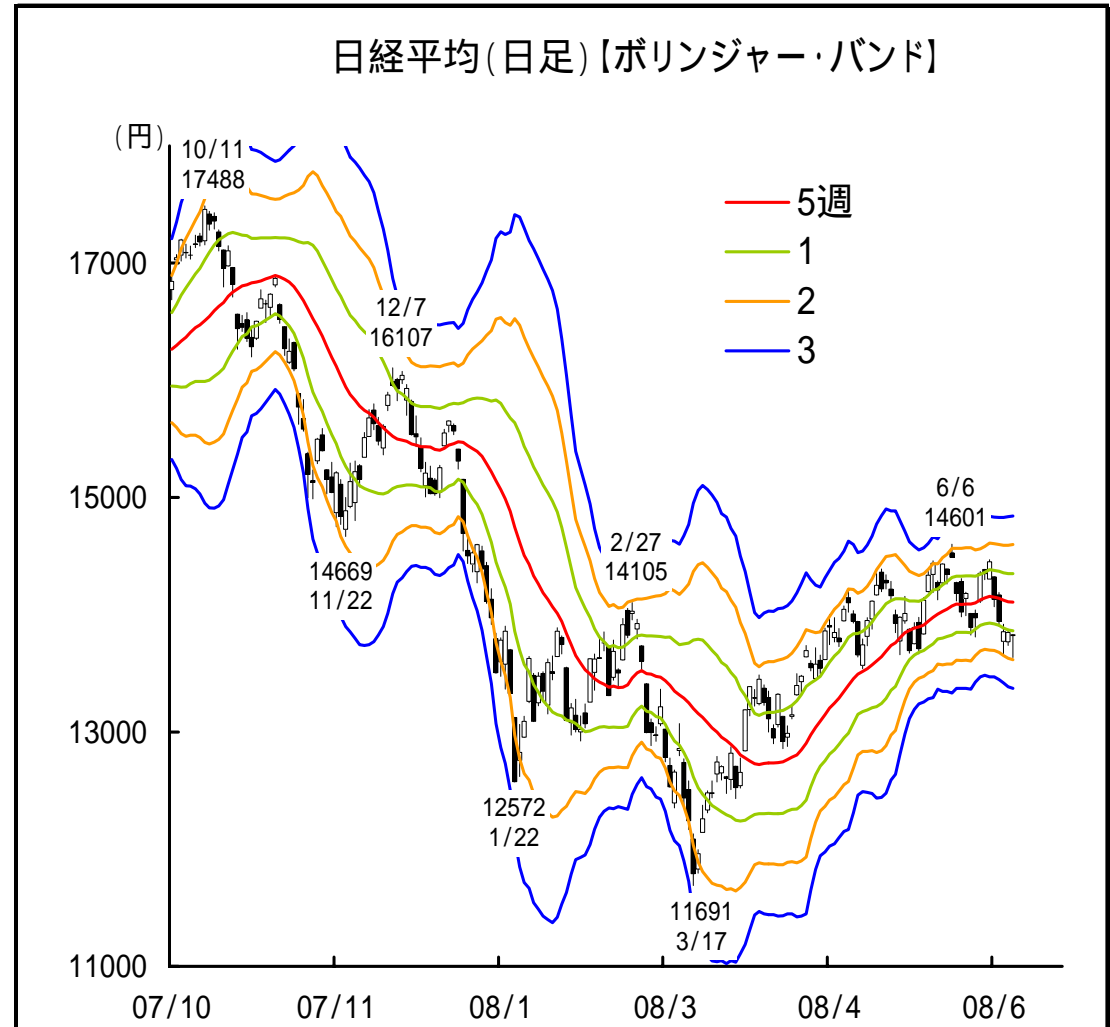


一般的に見られている期間で分析したい場合、表記の期間に近い期間に設定する。

1. 価格指標 (ボリンジャーバンド)

(2) ボリンジャーバンド

ジョン・ボリンジャーが考案したテクニカル分析手法。ある期間の移動平均から統計学により求められたバンドを描き、そのバンドを用いて投資判断を行おうとするものである。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1.価格指標 (ボリンジャーバンド)

【 計算方法 】

$$+1 \text{ (シグマ)の場合} \\ n \text{ 日間の移動平均} + \left(\frac{1}{2} \times n \text{ 日間の株価の標準偏差} \right)$$

2 の場合は2、3 の場合は3となる

$$-1 \text{ (シグマ)の場合} \\ n \text{ 日間の移動平均} - \left(\frac{1}{2} \times n \text{ 日間の株価の標準偏差} \right)$$

2 の場合は2、3 の場合は3となる

～ 補足 ～ 標準偏差 (シグマ) とは

価格変動のバラツキを数値化したもの。統計学で使用される分散の平方根で、資産価格の変動が大きいほど標準偏差は大きくなる。

(例) 1日目350円、2日目340円、3日目365円の株価の3日間の分散

$$3 \text{ 日間の平均} = \frac{350 + 340 + 365}{3} = 350$$

$$\text{分散} = \frac{(350-350)^2 + (340-350)^2 + (365-350)^2}{3} = 108.33$$

なお、価格の分布が正規分布に近い場合、理論的には1 の間に68.3%、2 の間に95.4%、3 の間に99.7%の数値が含まれる。

1.価格指標 (ボリンジャーバンド)

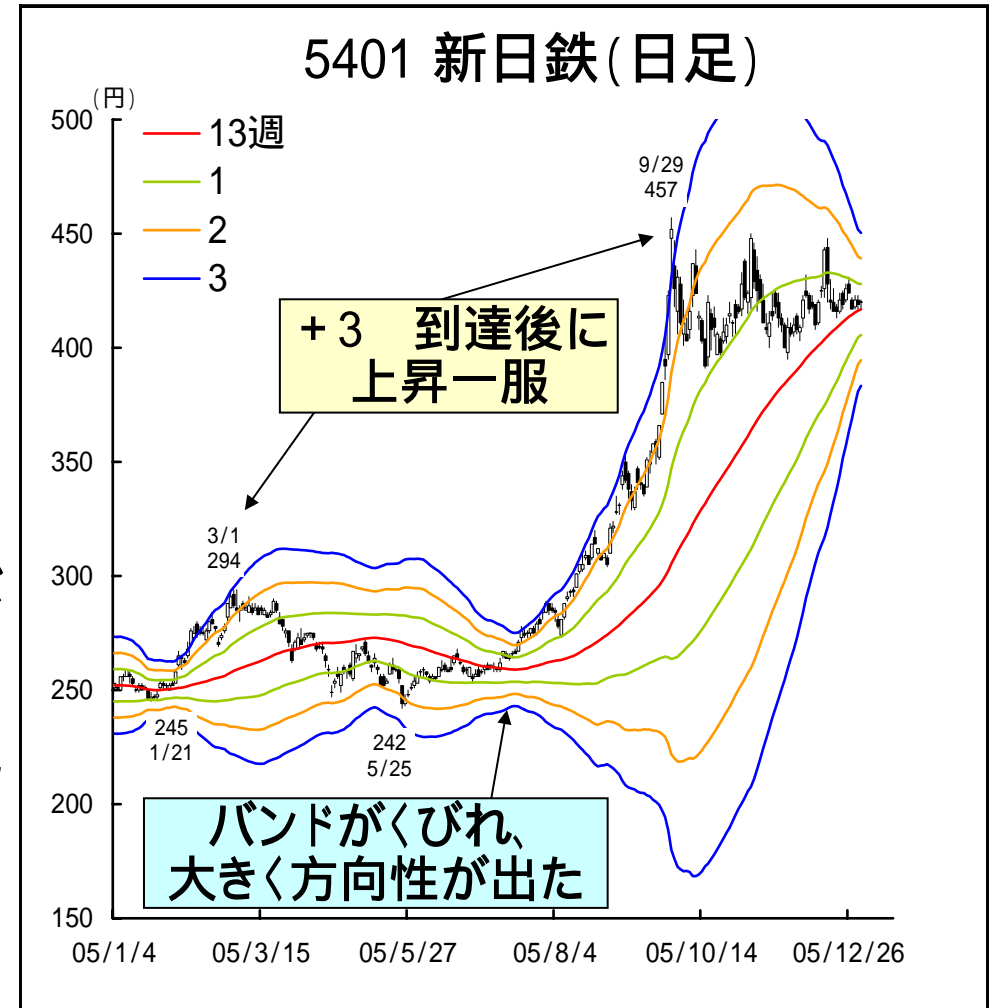
活用方法

買われ過ぎ・売られ過ぎの判断

1、2 又は3 のバンドを下値支持ライン、上値抵抗ラインと見て売買の判断を行う。

売買タイミングの判定

株価が横ばいで推移する期間が長引くと、標準偏差が小さくなり、バンドがくびれてくる。このくびれが生じている時に、株価が上下いずれかに振れた段階で売買を行うという手法である。ボリンジャーバンドの考案者のジョン・ボリンジャーは、よりこちらの方を重視している。



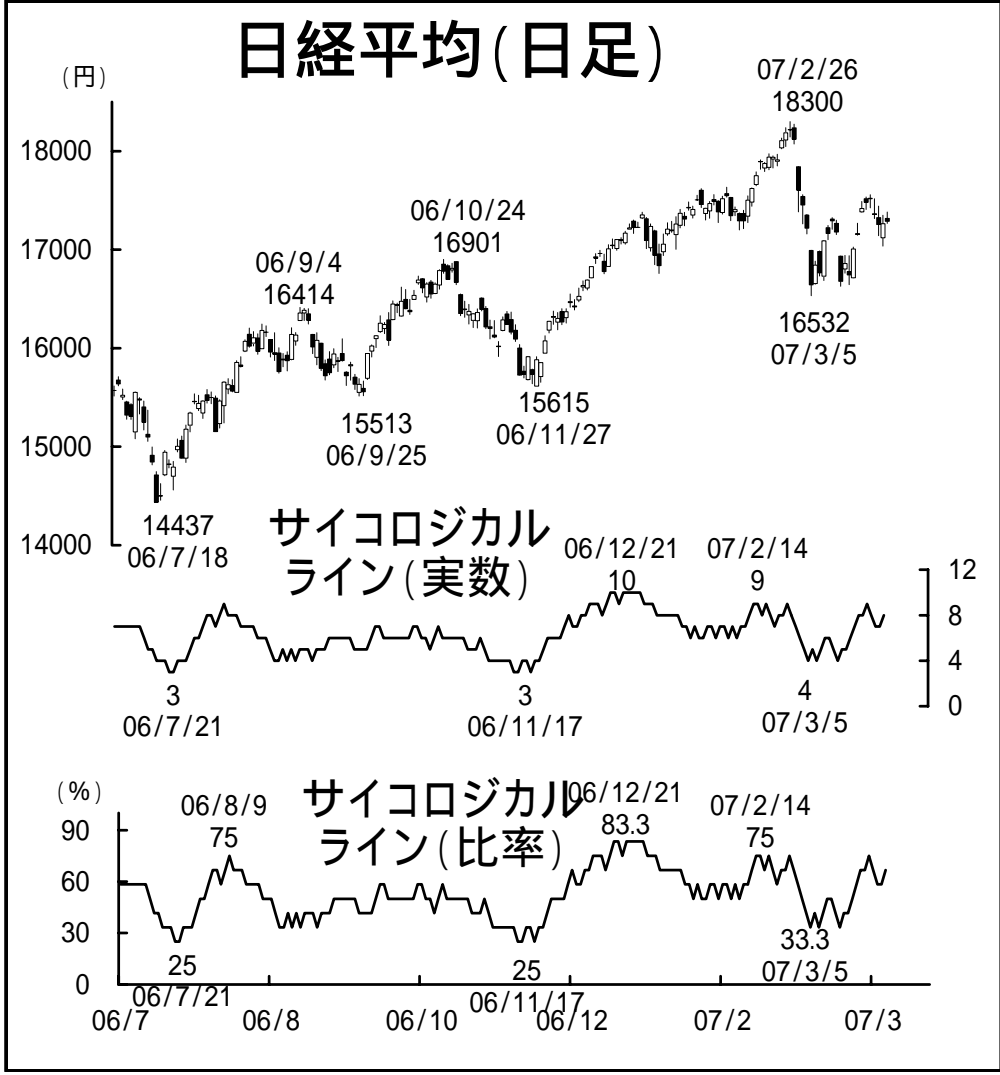
1.価格指標(サイコロジカル・ライン)

(3) サイコロジカル・ライン

株価は上昇し続けると投資家の買い疲れから反落、逆に下落し続けると売り飽きから反発となり易い。投資家心理のリズムから目先の株価を予測するものである。

【 計算方法 】

直近12営業日の中で、終値が前日比でプラスの日数を求める。比率の場合はプラスの日数を12で割った数値となる。一般には3(25%)で株価は底打ちが期待され、9(75%)で利喰いを考えるとと言われる。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

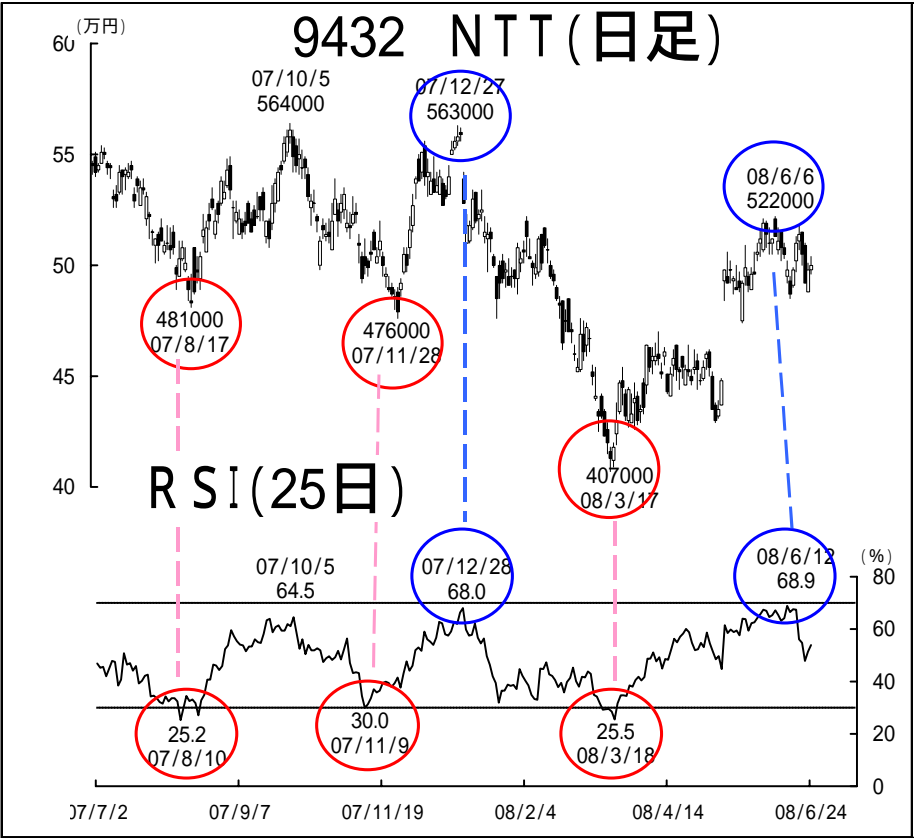
1.価格指標 (RSI)

(4) RSI

前述のサイコロに価格変動の大きさを加味したテクニカル指標である。サイコロは上昇した日数を数えるのに対し、RSIは一定期間の価格変動の合計値のうち、上昇した日の上昇幅の割合を計算する。

【 計算方法 】

$$n \text{ 日間のRSI}(\%) = \frac{n \text{ 日間のうち上昇した日の変動幅の合計}}{n \text{ 日間の変動幅の合計}}$$



	15日前	14日前	前日	当日										
株価	655	682	670	650	651	660	665	662	692	690	690	696	705	725	728	755
変動幅		7	12	20	1	9	5	3	30	2	±0	6	9	20	3	27

例えば14日間のRSIを考えた場合、変動幅の合計は147円、うち、上昇した日の変動幅の合計は110円で、RSIは74.8%となる。

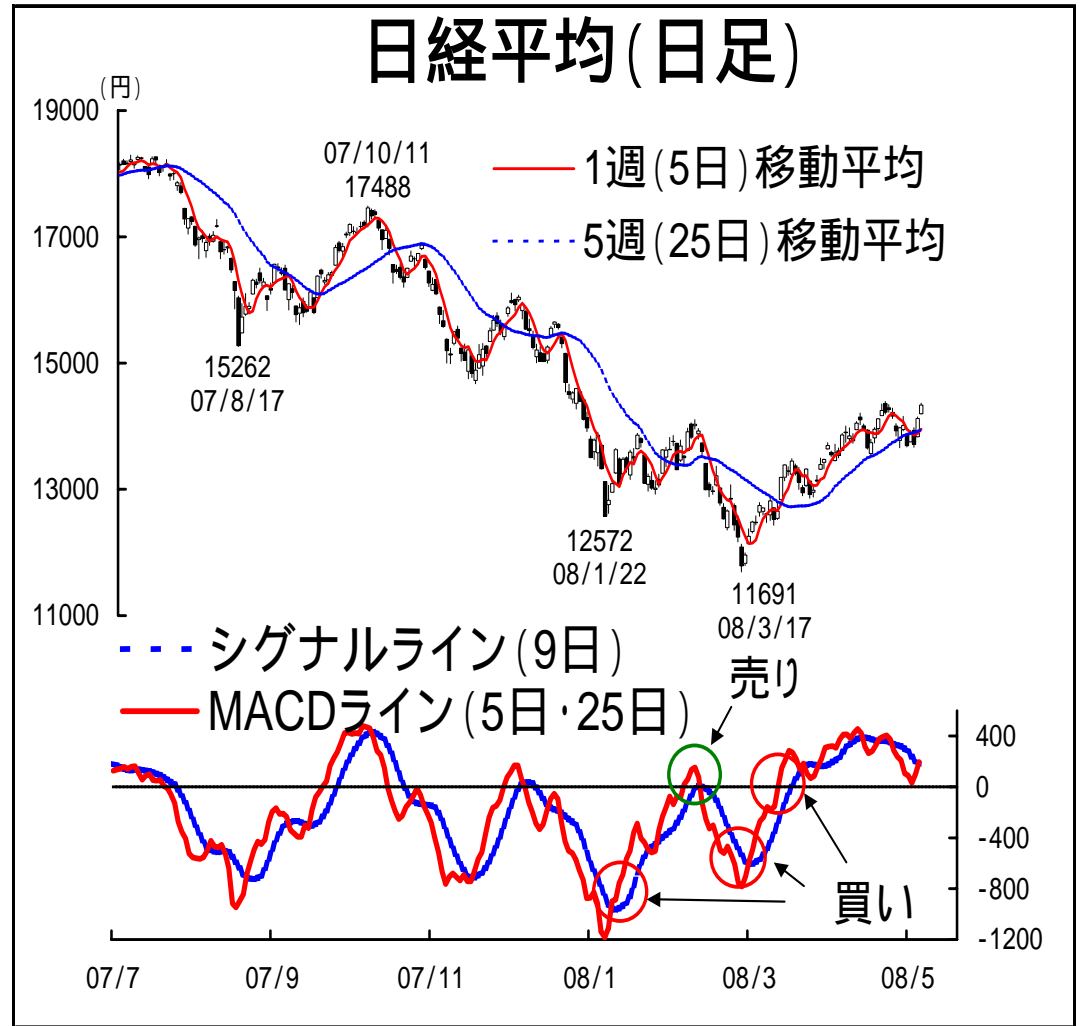
本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1.価格指標 (MACD)

(5) MACD

「Moving Average Convergence and Divergence」の略。異なる2本の移動平均の価格差の伸縮度合いにより、トレンドの方向性と転換の兆候を把握しようとするものである。

MACDラインとシグナルラインの2本を利用して投資判断を行う。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

1.価格指標 (MACD)

【 計算方法 】

$$\begin{aligned} \text{MACD} &= \text{EMA}(5) - \text{EMA}(25) \\ \text{EMA}(n) &= \text{前日のEMA}(n) + \frac{2}{(n+1)} (\text{直近終値} - \text{前日のEMA}(n)) \end{aligned}$$

nは期間を指し、5日間、25日間のEMAを計算する

$$\text{シグナルライン} = \text{ema}(9)$$

$$\text{ema}(9) = \text{前日のema}(9) + \frac{2}{(n+1)} (\text{MACD} - \text{前日のema}(9))$$

MACDの方向の変化(2本の移動平均の価格差が縮まったことを意味し、上向きに変化すれば買い、下向きに変化すれば売り)

MACDラインとシグナルラインの2本の線の交差(移動平均の価格差縮小が一定期間続き、移動平均のゴールデン・クロス等が近いことを意味する。

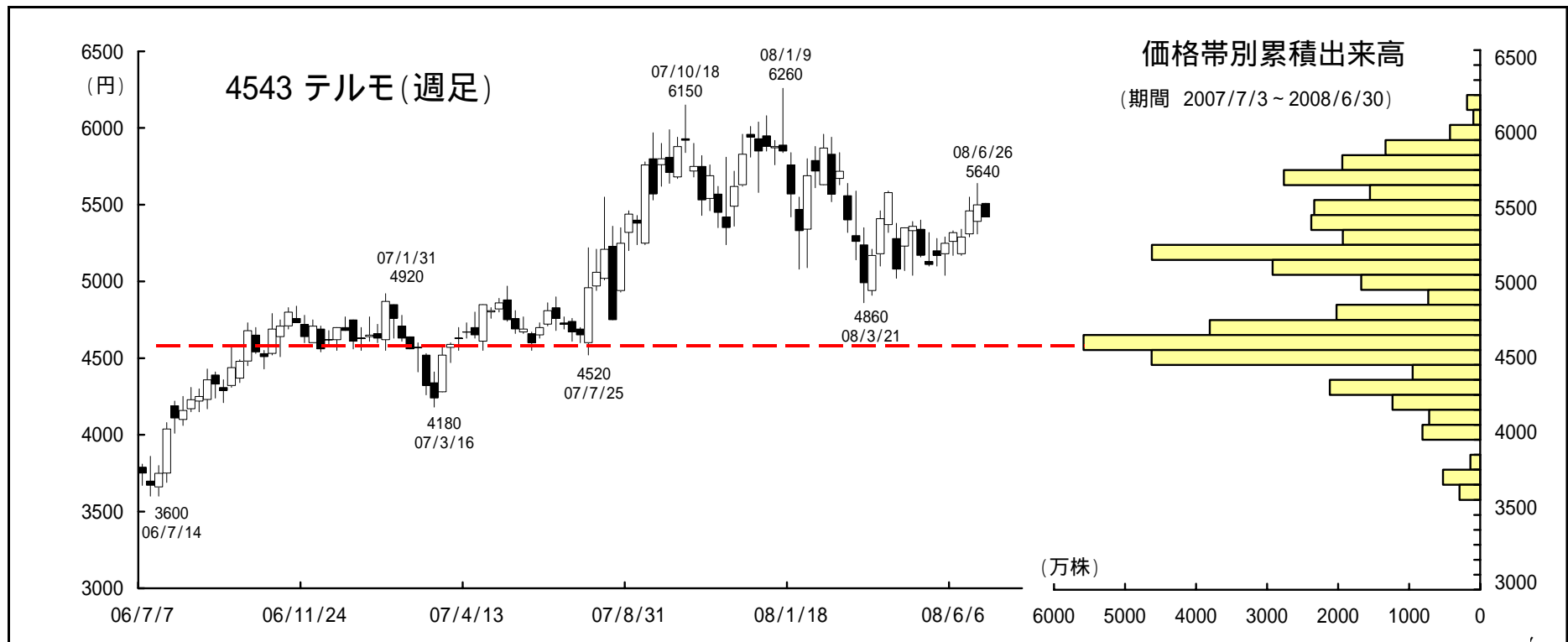
MACDラインがシグナルラインを上抜ければ買い、下抜ければ売りと判断する)

MACDのゼロラインとの交差(移動平均のゴールデン・クロス、デッド・クロスを意味する)などにより売買判断を行う。

2.エネルギー指標(価格帯別累積出来高)

価格帯別累積出来高(売買代金)

ある一定期間の価格水準別の出来高・売買代金合計を棒グラフで表した
もの。どの価格帯で売買した投資家が多いかを分析することで、過去のシコリ
や支持水準となっている価格帯を知ることが出来る。累積出来高の多いところ
は上昇場面では抵抗帯となり、下落場面では支持帯となる。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

3.質的指標(騰落レシオ)

騰落レシオ

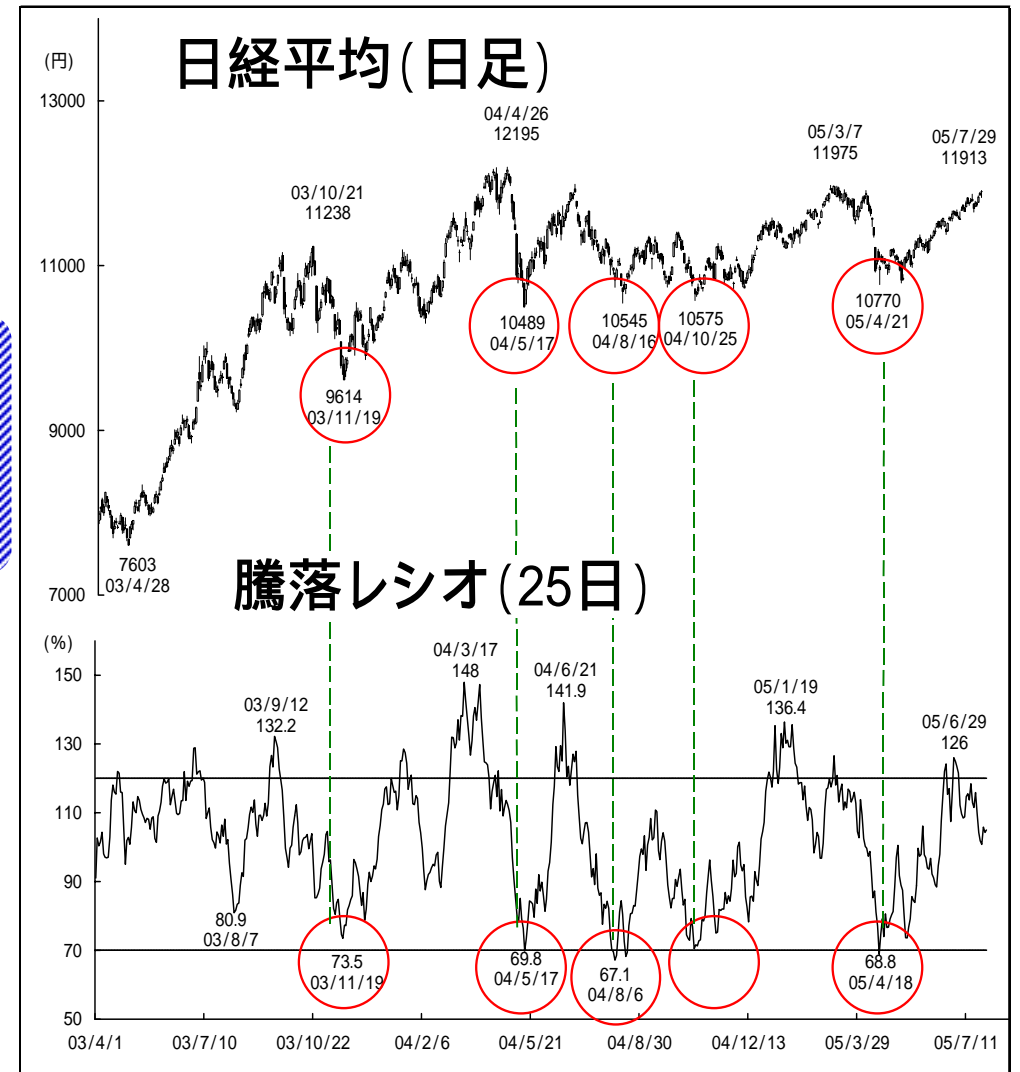
市場全体の値上がり銘柄数と値下がり銘柄数を比較して物色の広がり度合いを測る指標である。

【 計算方法 】

$$\text{騰落レシオ(25日)} = \frac{\text{値上がり銘柄数(25立会日合計)}}{\text{値下がり銘柄数(25立会日合計)}} \times 100$$

短期の分析では25日を用い、東証一部の場合、過去の平均的なボトムは70%、ピークは120%と言える。一般的には、騰落レシオは天井発見機能よりも底値発見機能に優れている。

やや長期的な分析を行う場合は騰落レシオ(100日)が用いられる。



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ 移動平均カイリ 例 ~



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ ボリンジャーバンド 例 ~



日経平均
(コードは101) を選択

+2 到達で「売り」の成功確率が高い

数値確認が
可能

詳細設定でボリン
ジャーバンドを選択

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~MACD 例~



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ 価格帯別累積出来高 例 ~



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

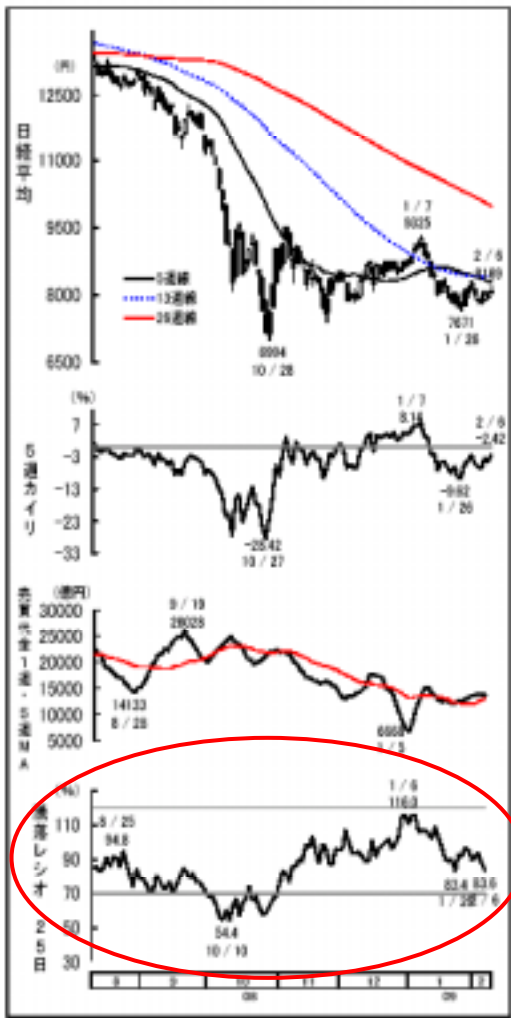
弊社提供資料での「騰落レシオ」の見方

大和証券ホームページより閲覧可能

1 NEWS UPDATE Daiwa Securities 09/02/06 1/1 エクイティ部

テクニカル・データ

日経平均	8076.62 円
前日比	▲126.97 円
サイコロ	6
5日移動平均	8277 円
カイ率	▲2.42 %
13日移動平均	8415 円
カイ率	▲4.02 %
26日移動平均	9988 円
カイ率	▲19.14 %
52日移動平均	11719 円
カイ率	▲31.08 %
全単純	226.54 円
前日比	0.32 円
サイコロ	5
TOPIX	790.84 Pt
前日比	▲4.43 Pt
サイコロ	5
出来高	197372 万株
1日移動平均	209900 万株
5日移動平均	191000 万株
売買代金	13685 億円
1日移動平均	13758 億円
5日移動平均	13012 億円
騰落レシオ (25日移動平均)	83.6 %
東証二種指数	1872.90 Pt
前日比	▲3.62 Pt
日経JQ平均	1051.65 円
前日比	▲2.19 円
マザーズ指数	332.13 Pt
前日比	▲2.5 Pt
ヘラクレス指数	488.84 Pt
前日比	▲3.82 Pt



クリックすると出てくる

シミュレーションも可能

70%割れがボトム圏、120%超えがピーク圏

新聞等に掲載されている東証一部の値上がり銘柄数・値下がり銘柄数を日々エクセルファイルに蓄積することにより、「仮にこのまま強含みに推移した場合（例えば値上がり：値下がりが900：600で推移し続けるとした場合）、騰落レシオはいつ頃ピーク圏に入るか」や「仮にこのまま弱含みに推移した場合、いつ頃ボトム圏に入るか」といった予測も可能である。

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ 多機能チャートの起動 ~

The screenshot illustrates the steps to activate the Multi-Function Chart on the Daiwa Securities website:

- 1**: Click on the **銘柄サーチ** (Stock Search) link in the top navigation menu.
- 2**: Enter the stock name or code (e.g., 8601) into the search input field.
- 3**: Click the **検索** (Search) button.
- 4**: Click the **多機能チャート** (Multi-Function Chart) button in the search results.

The search results for 8601 大和証券グループ本社 (Daiwa Securities Group Inc.) are shown, including options for **リアル株価** (Real Stock Price), **銘柄詳細** (Stock Details), and **株主優待** (Shareholder Benefits). The **多機能チャート** button is highlighted in purple.

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ 基本操作 ~

トレンド線を追加



余白を追加



価格帯別売買高を表示



全体を大きく表示



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ 詳細設定 ~



このスクリーンショットは、チャートの設定メニューを示しています。右側の「追加チャート」欄で「移動平均」が赤い円で囲まれており、赤い矢印が右側の赤い丸「2」を指しています。

基本チャート	基本チャートオプション	追加チャート	価格	表示順
<input checked="" type="radio"/> ローソク足	<input checked="" type="checkbox"/> 移動平均	<input checked="" type="checkbox"/> 売買高+信用残	1	1
<input type="radio"/> 折れ線	<input type="checkbox"/> 一目均衡	<input type="checkbox"/> 売買高+移動平均	1	-
<input type="radio"/> 新値足	<input type="checkbox"/> 回帰トレンド	<input type="checkbox"/> 売買代金+移動平均	1	-
<input type="radio"/> 時系列新値足	<input type="checkbox"/> フィボナッチ(戻り+ザラ場)	<input checked="" type="checkbox"/> 移動平均乖離率	1	2
<input type="radio"/> カギ足	<input type="checkbox"/> フィボナッチ(戻り+終値)	<input type="checkbox"/> RSI	1	-
<input type="radio"/> ポイントアンドフィギュア	<input type="checkbox"/> フィボナッチ(基調転換)	<input type="checkbox"/> ストキャスティクス	1	-
<input type="radio"/> 逆ウォッチ曲線	<input type="checkbox"/> ボリンジャーバンド	<input type="checkbox"/> スローストキャスティクス	1	-
<input type="radio"/> 騰落幅格	<input type="checkbox"/> バラボリック	<input type="checkbox"/> サイコロジカルライン	1	-
<input type="radio"/> 騰落率	<input type="checkbox"/> エンベロープ	<input type="checkbox"/> MACD	1	-
その他	<input type="checkbox"/> ピボット	<input type="checkbox"/> RCI	1	-
音響 <input checked="" type="radio"/> 白 <input type="radio"/> 黒		<input type="checkbox"/> ボリュームレシオ	1	-
赤白右 <input type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 20 <input type="radio"/> 40		<input type="checkbox"/> DMI	1	-
赤白天地 <input type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 10 <input type="radio"/> 20		<input type="checkbox"/> 強弱レシオ	1	-
高さ <input type="radio"/> 90 <input type="radio"/> 120 <input type="radio"/> 160		<input type="checkbox"/> モメンタム	1	-

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

「多機能チャート」の使い方 ~ 設定例 ~



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

(補足・相場分析について)

(1) 個別銘柄を分析する

マーケットに関係なく、個別銘柄を分析して
売買判断を行う。

多機能チャートで対応可能

(2) マーケット全体の分析と組み合わせる

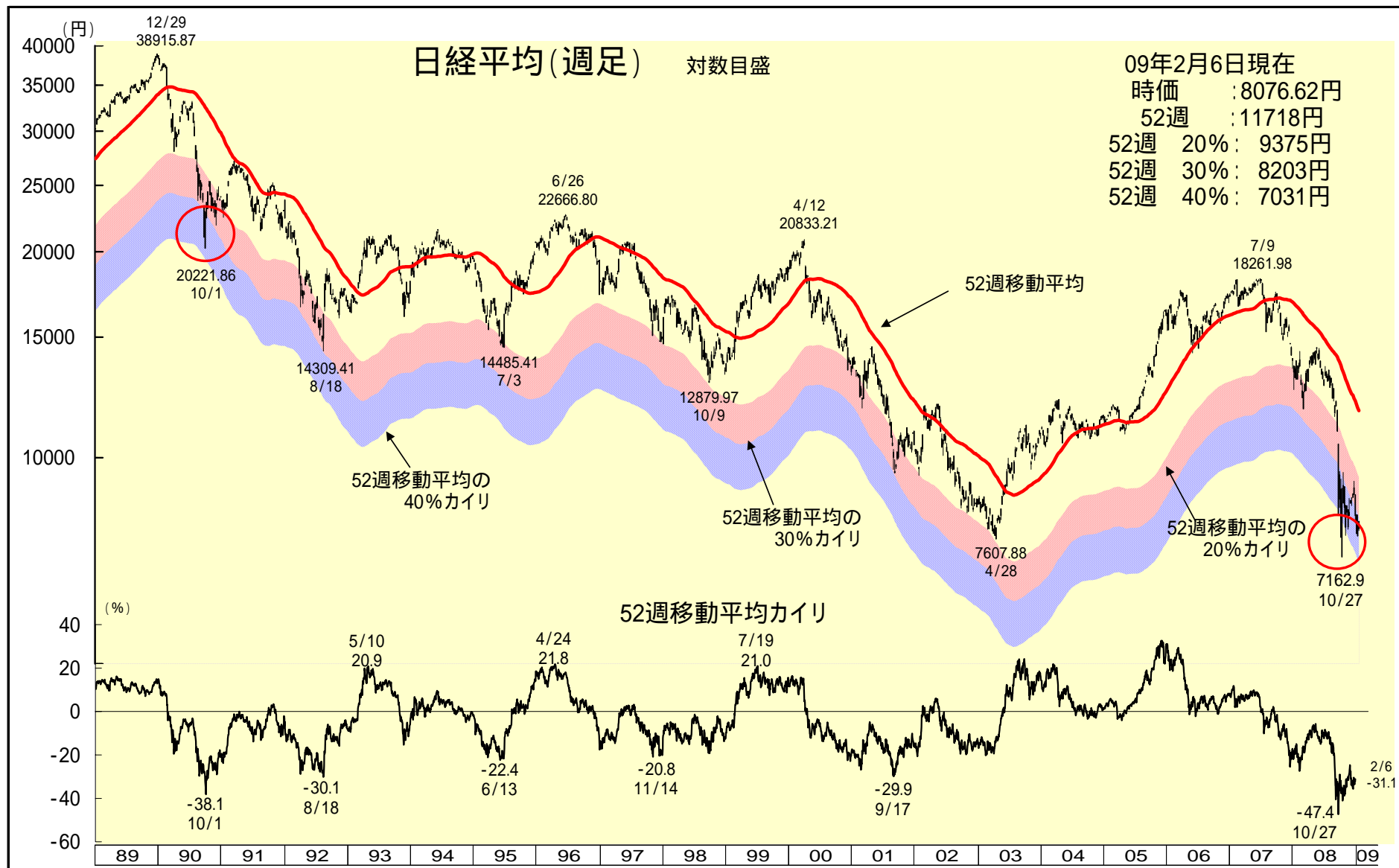
銘柄によっては、マーケット全体が強いときに同時に強い銘柄、マーケットが弱いときに逆に強い銘柄がある。よって、マーケットの強弱を分析することが、個別銘柄の投資戦略を組み立てる上で有効になる場合がある。

日経平均を分析することの他に、日本株に大きく影響を与える米国株や為替、金利動向などを合わせて見ておくと、より奥の深い分析が可能となる。



多機能チャートに加え、右図の様に海外市況、
為替・金利をチェックする

(補足・相場分析について) 投資環境 国内株式



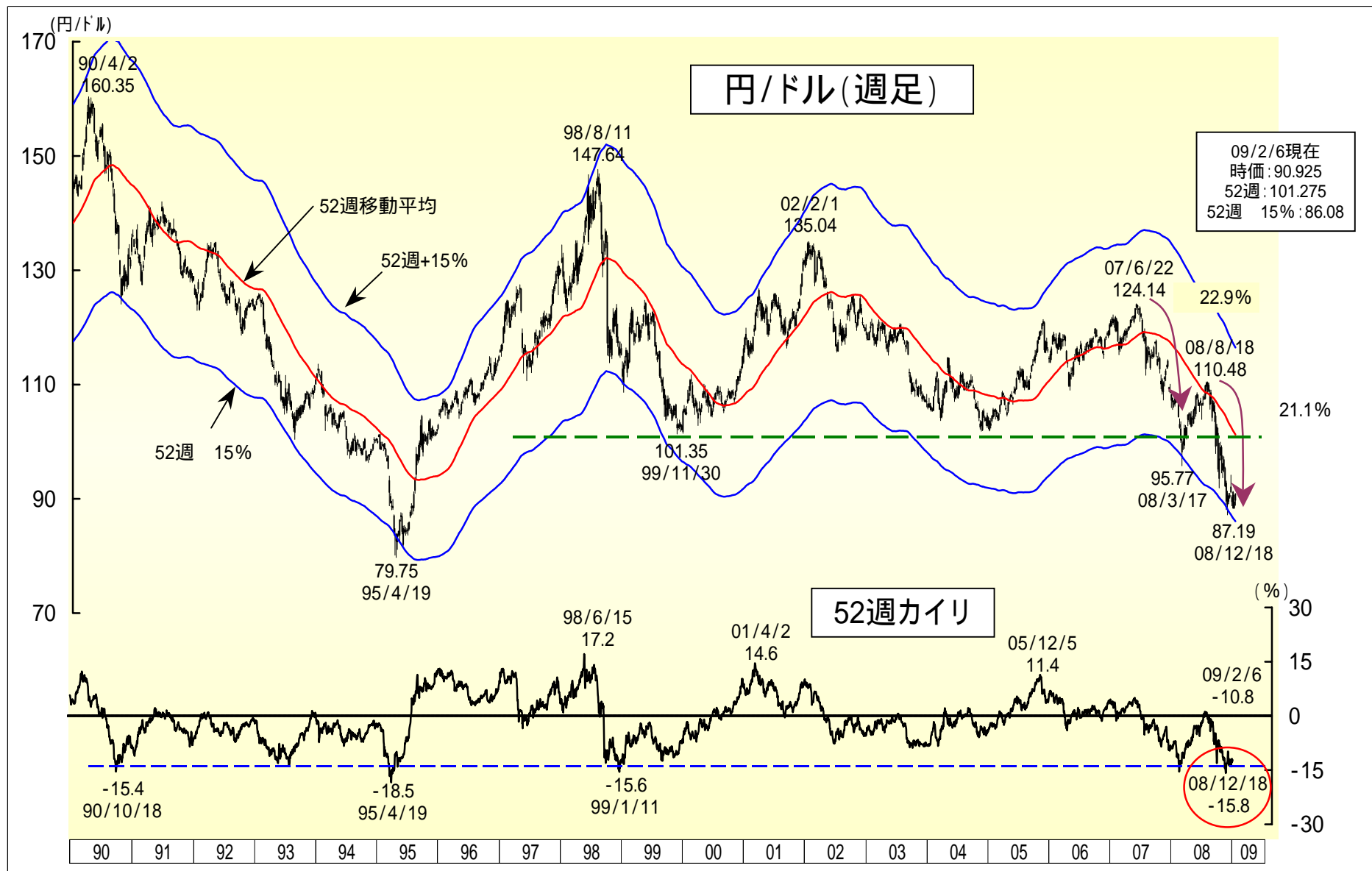
本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

(補足・相場分析について) 投資環境 米国株式



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

(補足・相場分析について) 投資環境 円/ドルレート



本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点における当社の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。